

ビル用セメント系下地調整塗材

ビルモル # 07

～健康的で安心な自然素材を絶妙にブレンドしたプレミックス材～

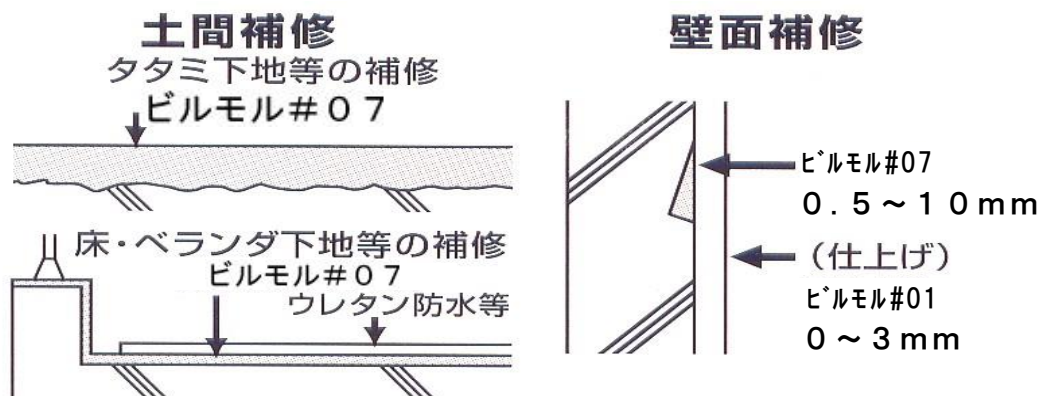
《 塗 装 、 ク ロ ス 下 地 用 》

〔目的〕

この施工マニュアルは「ビルモル#07」で部分補修を行った後「ビルモル#01」を0～3mm厚さで全面に塗付けペイント塗装、仕上塗材（吹付け、ローラー塗りなど）、壁紙クロス、ビニルクロスなどの下地になるよう仕上げる内外壁工事に適用する。

〔用途〕

コンクリート下地補修・ALC目地補修・土間補修



〔調合〕

ビルモル #07	25 Kg
シーラーN #45	約1～1.5 Kg
上水道水	約6～6.5 l

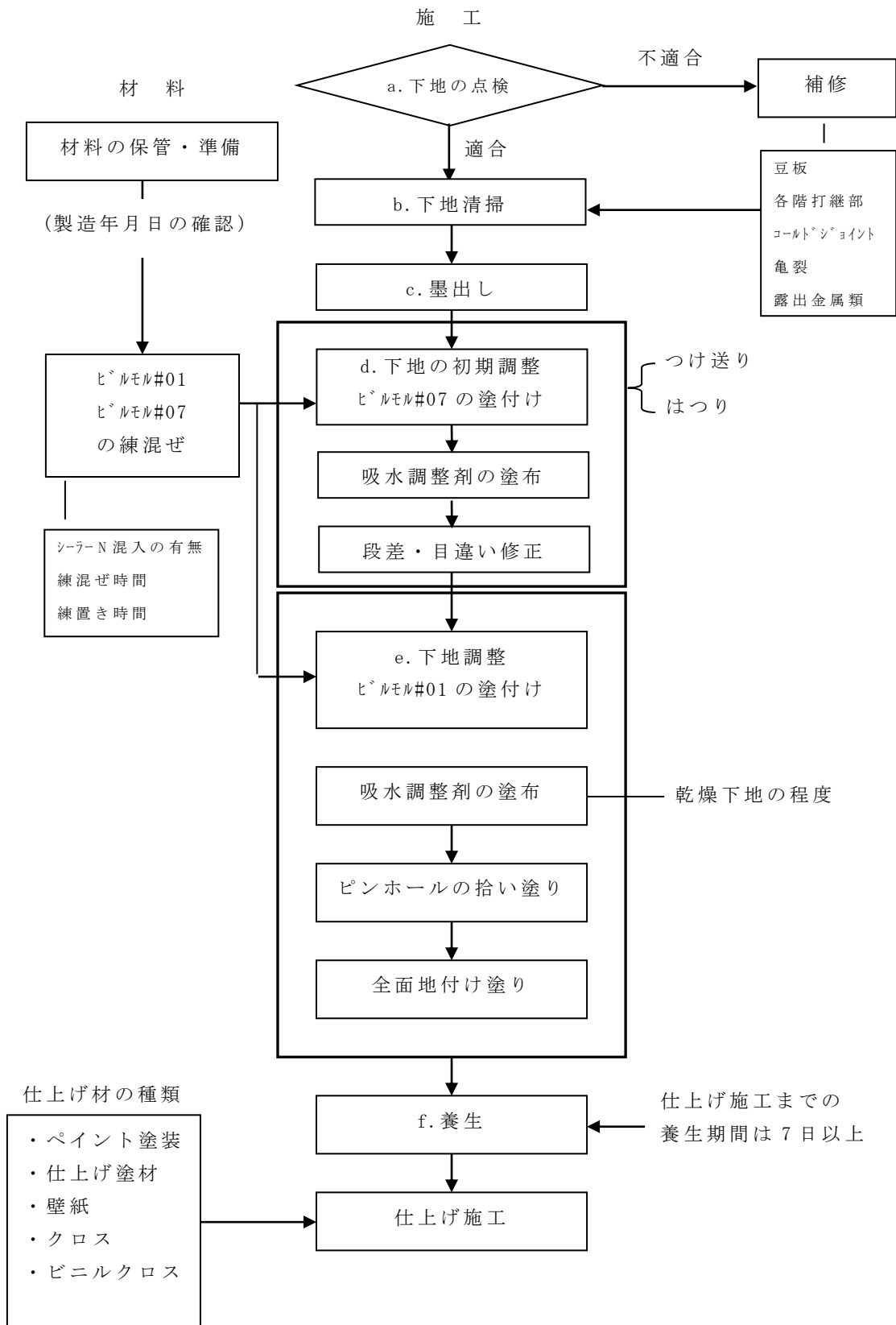
練上り量 : 約21 l
標準塗り厚 : 0.5～10 mm
塗り面積 : 約4.2 m² / (5 mm厚 / 1袋)

☆上塗り材料調合

ビルモル #01	25 Kg
シーラーN #45	約1～1.5 Kg
上水道水	約7.5～8.5 l

練上り量 : 約22 l
標準塗り厚 : 0～3 mm
塗り面積 : 約22 m² / (1 mm厚 / 1袋)

〔施工工程〕



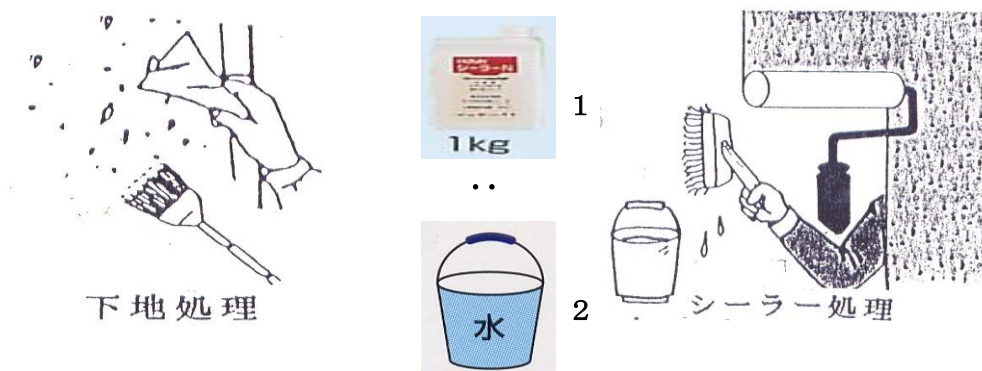
ビルモル#01は、仕上げ厚が最大塗り厚3mm程度なので、施工に先立って3mm以上の段差や目違いは予めシーラーN #45混入のビルモル#07で入念に処理しておく。尚、ビルモル#07の1回の塗り厚は7mmを限度とし、それ以上の塗り厚では2回塗り以上とし、この場合、下塗りの締まり具合を見計らって次の塗付けを施す。又、ビルモル#07を全面塗りする前に予め墨出しを正確に実施して下さい。さらに、ビルモル#01を全面塗りに先立ちピンホールは、金ベラや金ゴテなどで上から下へ、右から左へなど順序よく充填作業を行い、拾い塗りの乾燥程度を見計らって金ゴテで下から上へと全面塗りする。水引き加減を見計らい、隅・角・チリ廻りに注意してコテムラのないように押え仕上げを行う。

ピンホールなどの拾い塗りをせずに、いきなり全面塗りを行うとピンホール部分は空気を抱き込み膨れを生じる。膨れ部分を、更に塗ってコテ押えしても同じ状態である。したがって現場では午前中拾い塗りをしておき、午後から全面塗りをするなどの方法を講じて下さい。

[施工方法]

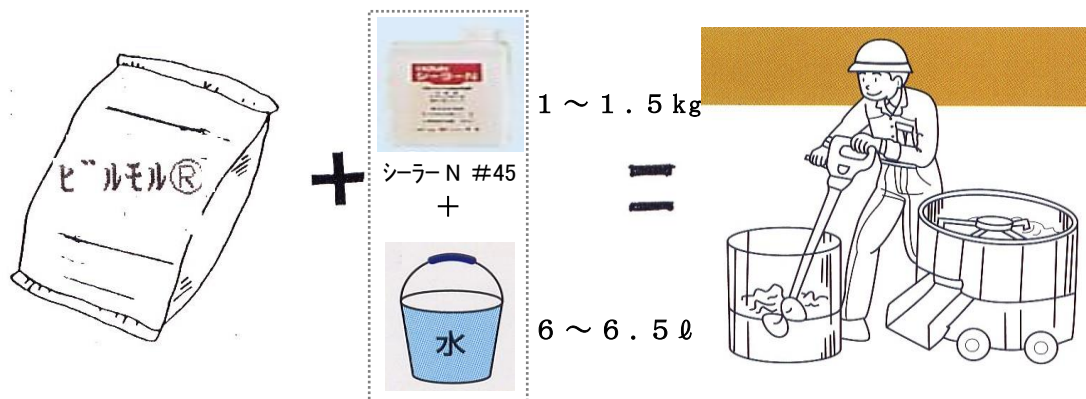
① 下地処理

- 1) 下地をよく点検して下地コンクリート面のレタンス、埃、塵、油分を取り除き十分清掃して下さい。
- 2) 下地清掃後、シーラーN#45 3倍液を塗布してシーラー処理をして下さい。
- 3) 雨もれの原因となるジャンカ、豆板、コールドジョイント部は、あらかじめシーラーN#45 3倍液で練混ぜしたビルモル#07で、塗付け補修して下さい。



② 練混ぜ

- 1) まず、バケツ等の容器に上水道水6～6.5ℓを入れ続いて「シーラーN#45」を1～1.5kg入れ良く練混ぜて混合水を作して下さい。
- 2) 標準水量より少な目の混合水をバケツ等の練り容器にとり、粉体を除々に加えながら練混ぜし、ついで残りの混合水を少量ずつ加えて、適度の軟度に調整して使用して下さい。



③ 塗付け作業

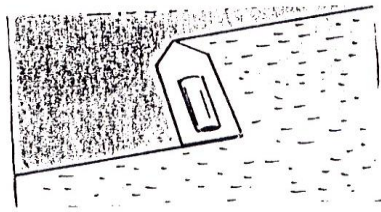
1) あらかじめ下地処理した施工面に、必ず「しごき塗り」(ガリガリとパーライトを潰す感じで躯体に押付けるように力強く)約1～2mm厚程度塗り付けを行い、追かけ所定の厚さに塗付けて下さい。

尚、塗厚が3mm以下の場合でも[しごき塗り]は必ず励行して下さい。

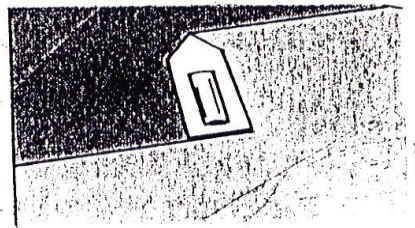
2)水引具合を見計らい、平滑に仕上げして下さい。

*1回に塗り付けを行う厚みは7mmを限度とし、それ以上の場合、3日以上養生期間を置き、シーラー処理後に2回塗りを行う。

*乾燥の激しい場合は、施工翌日の散水養生を行って下さい。



しごき塗り



追かけ塗り

④ 養生

1)施工時の養生

①寒冷期には、暖かい日を選んで施工をする。やむを得ず気温が5℃以下の時に施工する場合は、適切な保温対策を講じ、又、夜間の気温低下による凍害を受ける恐れがあるので作業を早めに切り上げ、十分な養生を行う。

②夏期に屋外で施工する場合は、急激な乾燥を防止するためシート等で覆うなど適切な対策を講ずる。

③降雨・強風あるいは周辺のほかの作業により、塗付け作業に支障をきたす恐れのある場合は、作業を中止する。

2)施工後の養生

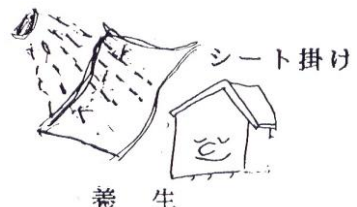
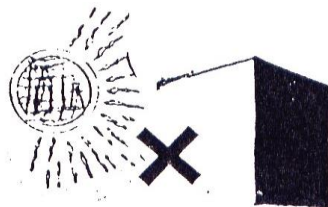
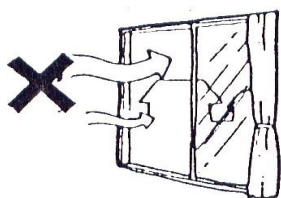
①塗付け後、早期に乾燥する恐れのある場合は、通風・日光を避けるようシート掛け養生など、適切な乾燥防止策を講ずる。

②冬期は、ビルメル#07及び#01塗付け後、早期に降雨・降雪に遭うと白華発生の恐れがあるので、シート掛け養生など、適切な防止策を講ずる。尚、白華が発生した場合は、下記の処置を実施する。

●デッキブラシ、ワイヤーブラシなどで、できるだけ白華を除去する。この場合、水洗いは、白華を再発する恐れがあるので避ける。

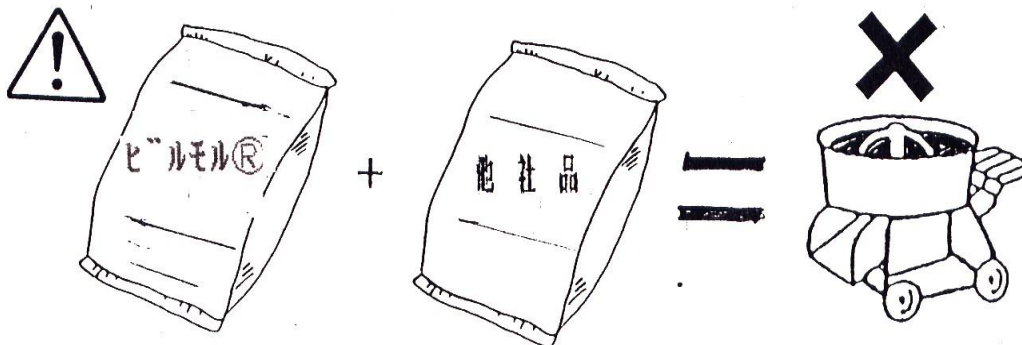
●清潔な乾布で、残留する粉が手に付着しなくなるまで清掃する。

③仕上塗材を施工するまでの養生期間は、通常1週間、冬期で2週間以上を目安として下さい。

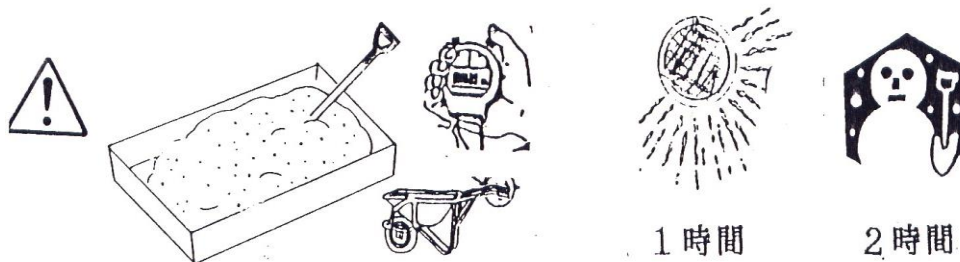


[注意事項]

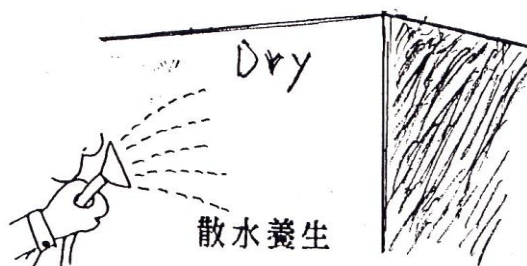
- 1) ビルモルシリーズ製品は既調合品ですので他の材料を一切混入しないで下さい。



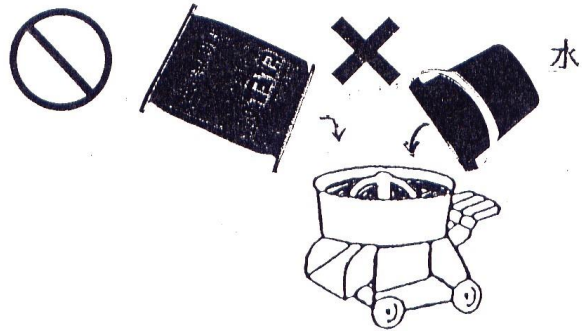
- 2) 練り混ぜた材料は、練り置時間として、夏期で1時間、冬期は2時間以内が目処です。



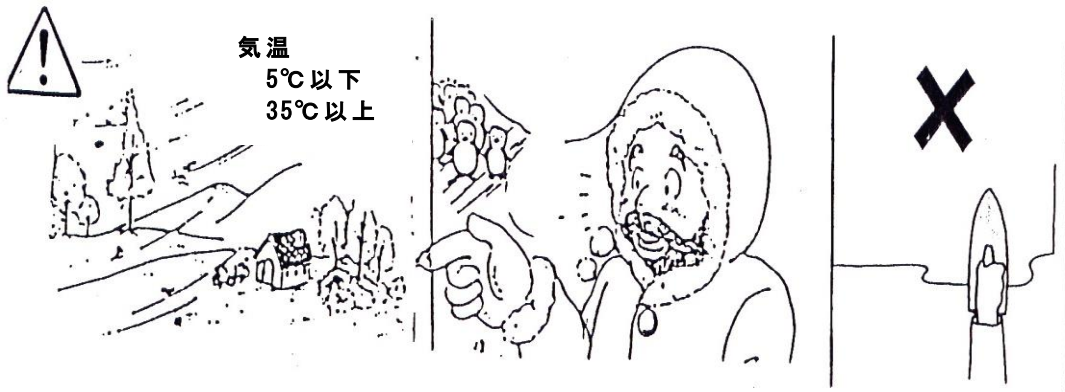
- 3) 塗厚が薄く乾燥が著しい場合は、塗付け翌日、散水養生を十分に行ってください。



4) 練り足し、練り戻しは避けて下さい。



5) 気温が 5℃以下、35℃以上になる恐れのある場合は、施工を避けて下さい。



使用上の注意事項

本品は厳重な品質管理のもと、工場にて製造された既調合です。

「使用上の注意事項」及び「取扱い時の安全対策（概要）」を確認の上、安全対策には十分留意してご使用下さい。

1. 既調合品の為、指定材料以外のものを練り混ぜないで下さい。なお、練混ぜには水道水等の上水道水を使用して下さい。
2. 練混ぜした材料は夏期 1 時間、冬期 2 時間以内に使用して下さい。練り足しや加水して練り戻しをしないで下さい。
3. 強風や直射日光等による急激な乾燥を防止するため、シート養生等適切な措置をして下さい。
4. 本品使用時の施工は、気温が 5℃～35℃の範囲内で行ってください。
5. 製品の製造年月日を確認し、製造から 6 カ月以上経過した製品は使用しないで下さい。また、開封した製品はできるだけ早く使用して下さい。
6. 下地コンクリートが、JASS 5〈鉄筋コンクリート工事〉の標準を満たしていない場合は施工を避けて下さい。
7. コンクリートブロックに施工される場合は各営業店にご相談下さい。
8. 悪天候（降雨、降雪等）、またその恐れがある場合は施工を避けて下さい。

取扱い時の安全対策（概要）

・ 取扱い及び保管上の注意

1. 目や皮膚等に触れないように適切な保護具（保護手袋、防塵マスク、保護メガネ等）を着用して取り扱って下さい。また、取扱い後は顔、手、口等を水で洗浄して下さい。
2. 製品の保管は、セメント同様の取り扱いとし、雨露のかからない屋内の湿気の少ない場所に、床面から離して保管して下さい。

・ 応急処置

〔目に入った場合〕

直ちに清浄な水で最低 15 分間洗浄し、速やかに専門医の治療を受けて下さい。

〔皮膚に付着した場合〕

速やかに水または温水で十分に洗い流して下さい。肌荒れがひどい場合は、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。

〔吸引した場合〕

速やかに新鮮な空気のある場所へ移動し、水または温水でうがいを行って安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。

〔飲み込んだ場合〕

水でよく口の中を洗う等して、直ちに医師の診断を受けて下さい。

・ 濾出時の注意

飛散した粉末は掃除機で吸い取って回収するか、ホウキやスコップで集め空袋等に回収して下さい。

・ 廃棄上の注意

廃棄する製品や練混ぜ材等は硬化させてから、産業廃棄物として適切な処置をして下さい。また、洗浄水等の排出は水質汚濁防止法等に注意して下さい。

・ 輸送上の注意

破袋、荷崩れ、落下等の防止策を確実に行って下さい。また、降雨時の湿気や水漏れに注意して下さい。

※本マニュアルの内容は、断りなく変更することがありますので、ご了承ください。

プレミックスの開発メーカー



株式会社 豊 運



本 社 〒546-0003
大阪市東住吉区今川 3 丁目 12 番 4 号
TEL 06-6708-8131 FAX 06-6708-8133
URL:<http://www.ho-un.co.jp/>

東日本営業部 TEL 0247-54-3232 FAX 0247-24-1004

西日本営業部 TEL 06-6708-8131 FAX 06-6708-8133

作成 2018/06 第 3 版